

キャリア形成論 LA § 特殊講義(キャリア形成論) GA § ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論) GA § キャリア形成特.<sup>16058</sup>  
義 SA

担当者名 / Instructor 桂島 宣弘

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Description

青年期から成人期にかけての発達課題をさまざまな角度から検討し、自己への認識を深めつつ、変容する社会を生きるための指針の確立をめざし、より良いキャリア形成(大学生生活、進路選択のあり方や生き方)を追求する。また、各人文科学領域より専門的な研究素材を共同提供することもねらう。

変容する社会と自己実現のテーマについて、特に人文科学の諸領域を素材に考える。

自らの成長、人格発達を社会につながる学びに高めていく道筋をデザインする。

自分にとってキャリア形成とは何かについて、授業を通じた相互交流の中で考える。

毎回の授業は、ゲスト・スピーカーを含め、各担当講師が講義を行うことを基本とする。各回の話題を結びつけるため、原則として毎回の授業の進行はコーディネーターが担当する。また、受講生の意見交流の場を積極的に位置付け、学生参加型の授業形態をめざす。各回の構成は、講義70分+質疑15分+コミュニケーションペーパー5分程度の展開とする。

#### 到達目標 / Focus and Goal

下回生から自らのキャリア形成を強く意識できる自立的な学生の育成を目指す。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

#### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月12日・19日	「青年期の発達課題と大学生生活」(春日井敏之教授 / 臨床教育学)	
4月26日・5月10日	「文学にみる人間像を通して自己の生き方を考える」(瀧本和成教授 / 日本近代文学)	
5月17日	「人格形成・モラル」(北尾宏之教授 / 応用倫理学)	
5月24日	「近世日本の人間観」(桂島宣弘教授 / 日本近世史)	
5月31日	「変革期の人物像を通して生き方を考える」(山崎有恒助教授 / 日本近代史)	
6月7日	「国際化・多文化社会に生きる」江川ひかり助教授 / 中東・バルカン近代史、トルコ史)	
6月14日	公開講座「現代韓国の青年像」(李元範客員教授・韓国東西大学校教授 / 宗教学・宗教史)	
6月21日	「21世紀の経済社会 - 工業社会から知識社会へ」(長澤克重教授 / 経済統計学)	
6月28日	公開講座「働くことと自己実現」(佐藤友美子 / サントリー次世代研究所部長)	
7月5日	「就職・進学を目指す在学生によるパネルディスカッション」	
7月12日・19日	「受講生によるディスカッションと相互交流および授業のまとめと小論文の作成」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

毎回のコミュニケーションペーパー、授業時の提出物、授業最終日に課す小論文、および出席で評価する

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

特殊講義(キャリア形成論II) GA § キャリア形成特殊講義 SB § ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論II) G3 § キャリア形成論 LC

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Description

授業は、社会構造の大きな転換期において、学生諸君が、雇用と仕事と生活をめぐる今日的な諸問題について、多面的に深く解読する科学的思考力を獲得し、職業理解および職業的自立を通じて、豊かな人生を切り開くことに資するものとして開講する。

具体的には、若年雇用問題に焦点をあて、1)社会構造の問題として多面的な視点から理解を深め、2)自己の生き方、働き方と関わらせながら解決策を探り、3)自己の将来進路を展望し、大学での学びを一層充実・活性化させることを目指す。

#### 到達目標 / Focus and Goal

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

#### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	「導入」中井美樹(担当教員)	
2.	「ライフデザインとキャリア形成」斎藤真緒(産業社会学部助教授)	
3.	「若年雇用問題の概要」堀有喜衣(日本労働政策研究・研修機構研究員)	
4.	「フリーター漂流」松宮健一(NHK報道局番組部ディレクター)	
5.	「若年雇用支援」田中俊英(NPO法人 淡路ブラッツ代表)	
6.	「若年雇用の法律相談室」笹山尚人(東京法律事務所弁護士)	
7.	「若者が働くとき～使い捨てられも燃えつきもせず～」熊沢誠(甲南大学名誉教授・職場の人権代表)	
8.	「ワークライフバランス～個人が主役の働き方～」大沢真知子(日本女子大学人間社会学部教授)	
9.	「若年雇用問題とキャリア形成～即戦力という幻想～」荻野勝彦(トヨタ自動車株式会社人事担当部長)	
10.	「大学生の学び～大学での学びは役に立つ～」溝上慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター助教授)	
11.	「若年雇用や教育をめぐって学生に伝えたいこと」斎藤貴男(ジャーナリスト)	
12.	「大学での学びと職業・社会生活」本学OBと内定者によるパネルディスカッション	
13.	「受講生によるグループディスカッション」	
14.	「グループディスカッション報告」	

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

#### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	
毎回の出席・小レポートと期末に試験に代わる全体を総括するレポート実施		

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義はゲスト・スピーカーを中心とするオムニバス形式となる。毎回、講義に続いて質疑を行うので、受講者は常に発言する用意をすることが求められる。あわせて、毎回講義の感想レポートを課す。なお、複数回の講義では、それまでの授業を受けて、卒業生を招いたパネルディスカッションや受講生間でのグループワークを取り入れた参加型の授業を実施する。そこでは、自分の将来、社会で生きることや働くことの意味を考え、他者と語り合いながら学んでほしいと期待しており、能動的な授業態度が求められる。

#### 教科書 / Textbooks

授業ごとに参考文献や資料を紹介

#### 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は、立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万5000人の大規模総合大学の立命館大学は、2キャンパス、9学部からなります。各学部では人材育成に向けた教学方針の下で学部教学を深めていますが、その一方で、他学部の、ましてや他キャンパスの優れた講義に触れる機会は極めて乏しいのが現状です。

このため、9学部中、8学部から教授法と講義内容に定評のある優れた教員を講師として招きました。立命館大学の英知を学び、吸収してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 一般的に学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて学部教学の社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。立命館大学の英知に触れ、自らの専攻学問の再検証を図る。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1980年代半ばに生まれた皆さんは、成長期と日本経済の低迷期が見事に重なる世代で、各種統計でも会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つ世代でもあります。本講義では、この誤ったイメージを3つの科学的なカテゴリーから払拭します。会社は長い職業人生の舞台であり、皆さんの才能が発露される場でもあります。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、ビジネス社会に前向きな気持ちで臨めるよう、科学的にサポートします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本講義は、全学インターンシッププログラム関連科目に位置づけられています。そこで、同じ関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)の受講を勧めます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで4カ月かけてあたる「コーオブ演習」(3回生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。これらはいずれも両キャンパスで同時開講されます。

さらに、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目)も夏季集中講義として開講されます。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / 会社とは何なのか (インターンシップ教学委員会 加藤敏明教授)	概要 / 副題「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なものの見方、考え方の基本を説く。 【経済学、経営学カテゴリー】
第2回目	テーマ / 「経済学」がとらえる会社と企業社会 (角田修一 経済学部教授)	概要 / 会社 = 企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的な位置や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
第3回目	テーマ / 「国際経済」の中の日本企業 (板木雅彦 国際関係学部教授)	概要 / 企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしなが、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
第4回目	テーマ / 「現代経済の転換」と会社 (山田彌 経済学部教授)	概要 / 経済のグローバル化は抗しがたい勢いで進行している。小泉構造改革は温情主義を廃し低生産性部門を切り捨て国際競争力を一層強化することで輸出主導型経済の維持を志向してきた。しかし大幅な貿易黒字と巨大金融債権を持つこの国において少子高齢化の進行と巨額の財政赤字のもと、持続可能な経済運営すら危ぶまれている。高度成長型経済システムから低成長下でも持続可能なシステムへの転換こそが取り組むべき課題であること、そしてそのなかでの日本企業の課題が何であるかを考えたい。
第5回目	テーマ / 「財務」から見た会社 (藤田敬司 経営学部教授)	概要 / ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。 【法学カテゴリー】

第6回目	テーマ/「商法(会社法)」と株式会社 (中村康江 法学部助教授)	概要/皆さんの中には卒業後会社に就職する人も、すぐにも自分で会社を作りたいと考えている人もいると思う。会社に就職した人であっても、いずれ社長になれば自ら会社を経営することになる。会社の経営には多くの関係者が存在するため、その利害を調整する一定のルールが必要になる。会社法は会社に関する法的ルールを定めた法律である。この講義では、株式会社の経営に関する具体的な問題について、会社法の観点からできる限りわかりやすく説明する。
第7回目	テーマ/「商法(会社法)」と株式会社 (中村康江 法学部助教授)	概要/会社を経営するには資金が必要である。また、不要な部門を切り離したり、他の会社と合併したりすることにより、会社の事業内容を再編する必要もあるだろう。他の会社から意に反する買収を仕掛けられた際など、会社を守らねばならないときもあるかもしれない。しかし、これらの判断は常に経営者の一存で決められるものではない。関係者を保護するために会社法の中でどのような手当がなされているか、できる限りわかりやすく説明する。なお、2回の講義を通じ、法的側面から株式会社を考察する。商法中、質量とも最大の規模を有する会社法のうち、企業統治関連部分(取締役の責任軽減や委員会等設置会社等)を重点的に取り上げ、株式会社の仕組みを法解釈手法から判りやすく解き明かす。
第8回目	テーマ/「税法」と株式会社 (望月爾 法学部助教授)	概要/今回の講義では、受講生が将来就職して働く中でどのような課税上の扱いを受けるのか、給与所得者の所得課税について、その現状と問題点をとりあげたい。まず、給与所得課税の基本的仕組みを説明したうえで、給与所得控除やフリンジ・ベネフィット課税、源泉徴収・年末調整と給与所得者の確定申告権などの具体的な問題を納税者の視点から考える。加えて、最近議論となっているいわゆる「サラリーマン増税」の内容を批判的に紹介したいと思う。
第9回目	テーマ/「経済法」と株式会社 (宮井雅明 法学部教授)	概要/本講義では、独占禁止法が株式会社の事業活動にどのように関わってくるかを具体的に解説する。入札談合、メーカーないし輸入業者による小売業者への価格拘束、大規模小売業者による納入業者への不利益の強要、量販店による仕入れ値を割るほどの低価格販売等、具体例を挙げて、なぜ、株式会社は独占禁止法の順守に真剣に取り組まなければいけないかを実感してもらいたいと考えている。キーワードは、「公正かつ自由な競争」である。
		【中間的総括】
第10回目	テーマ/経済学、経営学、法学を概観して (インターナショナル教学委員会委員 加藤敏明教授)	概要/3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で構成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果をレポート提出する。
		【総合科学カテゴリー】
第11回目	テーマ/「会社」の社会的役割 (服部利幸 政策科学部助教授)	概要/日本だけでなく世界各国で企業の不祥事が多発している。このような状況で、企業が社会より信頼性を確保するためには、社会的責任を自覚し、それを反映した経営理念に準拠した企業活動を遂行する必要がある。本講では改めて、そもそも企業とは何か、企業が何を対象にどのように活動し何を求めるのか、社会に何を還元しうなのか、さらに、企業の社会的責任とは何か、に関して、その全体像を考察する。
第12回目	テーマ/「NPO」法人と株式会社 (秋葉武 産業社会学部助教授)	概要/1998年のNPO法施行以降、日本でもNPOが急速に台頭している。NPOという組織の株式会社と何が異なり、何が共通しているのかを明らかにする。同時に近年、「営利」「非営利」が融合し、新しい働き方が生まれている。また現在、多くの企業がNPOとのパートナーシップを進めており、この点についても論じていく。

第13回目	テーマ / 「科学」の目を通して (遠藤彰 理工学部教授)	概要 / 近代の自然科学の背景にある「合理的精神」については、その正統性と限界性をうまく理解しておきたい。問いの世界は自由だが答えるのは不自由もいいところ。とりわけ人間社会とそれを支える組織、経済原理の拠ってたところについて、生物学の視点からなにか気のきいたことを語れといわれても、それはとても難しい。ここでは苦し紛れに、生物学が人間という存在を<相対化>できる数少ない科学であるとの確信に基づいて、怪しい存在としての人間の、その近代になってますますその「怪しさ」を顕わにしてきたこと 怪しい / 人間の / 生態学を試みてみよう。
第14回目	テーマ / 「現代社会」と文学 (瀧本和成 文学部教授)	概要 / 1980年代以降の現代文学を取り上げ鑑賞しながら、現代(ビジネス)社会の中で私たちがどのようにアイデンティティーを確立し、人間関係を築いているのか、あるいは、多様な価値観の中で現代社会をどのように捉え、生きていくべきなのか、を学生諸君と共に考えてみたい。
【総括】		
第15回目	テーマ / 専攻学問(科学)と会社 (インターンシップ教学委員会委員 加藤敏明教授)	概要 / インターンシップおよび就職活動直前期にあたって、会社(ビジネス社会)を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、4カテゴリからのアプローチを総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになりましょう。最低限毎日、新聞はしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind                      割合 / Percentage                      評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験                                      20 %                      3つのカテゴリーの理解度を中心に評価します。

日常点    80 %                      出席状況、講義内レポート、受講態度の3要素をもとに評価します。

全学インターンシッププログラム関連科目に位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、専用の席につきます。80%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されます。受講を機に、厳密な時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

「経済学、経営学」、「法学」、「総合科学」の3つのカテゴリーの下で、私(加藤)を含め12人の教員が講義を展開します。よって、講義の多くは皆さんの専門外の分野です。シラバスで示した講義概要をもとに、事前に基本書に目を通すよう努めてください。担当講師が基本書を指定する場合は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター役の加藤が示します。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

会社はこれからどうなるのか

岩井克人 / 平凡社 / ISBN4-582-82977-5 / 会社は何者か、誰のものか、どうなるのか、会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。

初回の授業に向けての基本書を挙げておきました。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」(トップページ右上)で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、他の教員の研究業績も閲覧してみてください。立命館大学の英知が感じ取れるはずです。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた科学的な会社観を大いに生かしてほしいものです。

## キャリア形成特殊講義 SD

16017

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- (1) 民間企業のあらゆる業種・分野の職種調査と、その職種に求められる要件(資格・語学・アカデミックキャリア)の調査
- (2) 職種ピックアップとインタビュー
- (3) 調査に基づく議論、レポート作成、プレゼンテーション
- (4) 1グループ5名程度のグループワークとする

## 到達目標 / Focus and Goal

さまざまな業種、職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。またフィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を涵養する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	概要説明、業界・企業研究1	
第02回	業界・企業研究2	
第03回	業界・企業研究3	
第04回	業界・企業研究4	
第05回	業界・企業研究5	
第06回	フィールドワーク事前ガイダンス	
第07回	フィールドワーク1	
第08回	フィールドワーク2	
第09回	フィールドワーク3	
第10回	フィールドワーク4	
第11回	プレゼンテーション1	
第12回	プレゼンテーション2	
第13回	プレゼンテーション3	
第14回	プレゼンテーション4	
第15回	プレゼンテーション5	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかりと行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビューに臨むこと

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	授業への出席を重視します。第1回目の授業では授業の進め方、成績評価など重要な説明をしますので、必ず出席してください
P(合格)またはF(不合格)として評価する		

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

適宜指示する

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬社 / /
はたらく青年	原田 宗典 / 角川文庫 / /
イラクの戦場で学んだこと	岸谷 美穂 / 岩波ジュニア文庫 / /

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Description**

本講義は、専攻の異なる学部生が少人数のグループを編成し、ワーキング(議論)を活発に展開しながら学ぶスタイルに特長があります。この形式の講義は、全15回のうち9回にわたり行われ、そのたびに大教室は盛り上がる議論で騒然となります。

講義名の通り、全学インターンシッププログラムの関連科目に位置づけられており、3回生のインターンシップに向けて必要とされる教養、知識を学びます。

**到達目標 / Focus and Goal**

「基礎学習」では、自らの専攻学問の再検証を目標とします。その上で、「実践学習」では、外部講師を招き企画立案能力とプレゼンテーション能力を習得し、「発展学習」でビジネス社会を科学的にとらえる視座を獲得します。その上で、「総括学習」では高倍率時代を迎えているインターンシップで確実にエントリー通過を果たせるように、専門家を招き戦略的なエントリーシート作成法をマスターします。

**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to**

本講義は、全学インターンシッププログラム関連科目に位置づけられています。そこで、同じ関連科目の「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで4カ月かけてあたる「コーオブ演習」(3回生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。これらはいずれも両キャンパスで同時開講されます。

さらに、高度なインターンシップ、コーオブ教育を柱とした「コーオブ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目)も夏季集中講義として開講されます。

**授業スケジュール / Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
		【基礎学習】
第1回目	テーマ / キャリア教育考 (加藤 / 講義)	キーワード / 一人称から二人称へ。科学的な視座とは何かを学び、立命館大学のインターンシップ基本理念の精神を理解する。
第2回目	テーマ / キャリア教育考 (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / 大学における学び、専攻学問。入学以来の学びをグループの議論を通じて総括する。
第3回目	テーマ / 科学(労働経済学)と就労 (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / 格差の経済学、負担の経済学。学ぶ意義と働く意味をグループで議論する。
第4回目	テーマ / 科学(労働経済学)と就労 (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / 雇用と失業の経済学、ライフスタイルの経済学。学ぶ意義と働く意味をグループで議論する。
第5回目	テーマ / インターンシップからコーオブ教育へ (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / 立命館大学のキャリア教育科目、コーオブ教育の世界動向。専攻学問と就業体験の関わりにつきグループで議論する。
		【実践学習】(集中講義)
第6, 7回目(土曜日の集中講義を予定)	テーマ / 企画立案への挑戦 (菅野聡之 セガ エンタテイメント施設事業部施設開発統括部長 / 講義 + グループワーク)	概要 / ゲームソフト及び機器のトップ企業、セガから菅野部長を講師として招き、計4回の集中講義を通じてグループ別企画立案に挑戦する。発表成果は、成績評価対象。初日は、ビジネス社会における企画立案の重要性や、そこに求められる基礎知識や素養等をまず講師が指導。その上で、現実的な課題が講師から提示される。後半は、専攻学問の異なる顔ぶれからなるグループを編成し、その課題に対する企画立案に向けた議論を展開する。
第8, 9回目(土曜日の集中講義を予定)	テーマ / 企画立案への評価 (菅野聡之 セガ エンタテイメント施設事業部施設開発統括部長 / 講義 + グループ発表)	概要 / 再び菅野講師に登壇いただき、提出された企画立案を検証、評価。優秀作品については、グループ発表を行う。最後に、企画立案とプレゼンテーションに関して講師による総括がなされる。
		【発展学習】
第10回目	テーマ / 「プロデューサー」として見る会社 (中村彰憲 政策科学部助教授)	概要 / 従来のもノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つプロデューサー的人材への要請が高まっている。コンテンツ型人材の解析を通じ、政策科学部の目指す人材育成像を解き明かす。



第11回目	テーマ / 企業風土と企業文化 (ペルント エン / 経営学部教授)	概要 / 文化とは、人間関係のあり方に関する暗黙のルールとして定義できる。ならば、企業文化とは、企業組織における個人と個人、又、個人と組織に関する暗黙のルールとなる。それはなぜ重視されるようになったか、又、そのルールはどのように形成されるか、そして文脈と組織によってどのように異なるかをテーマにする。それを通じ、企業組織のあり方及びそれに関する見方の複雑さと面白さを紹介したい。
第12回目	テーマ / 「人事部」から見るインターンシップ (野崎治子 堀場製作所人事教育部長)	概要 / インターンシップの受入れ側は何を学生に求め、何を見ているのか。コーオプ演習などを通じて本学との間で様々なインターンシッププログラムを展開する堀場製作所から野崎治子部長を講師として招き、インターンシップの二人称的考察を試みる。
【総括学習】		
第13回目	テーマ / 戦略的エントリー法 (木島洋嗣 キャリエリアファクトリー代表取締役社長)	概要 / 高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。1回目は論作文。小手先の文章作成スキルでは限界がある。長く就職支援に携わる木島社長を講師として招き、マニュアルを脱したハイレベルの論作文の作成法を学ぶ。
第14回目	テーマ / 戦略的エントリー法 (木島洋嗣 キャリエリアファクトリー代表取締役社長)	概要 / 高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。2回目はエントリーシート。やはり脱マニュアルをキーワードに、高倍率のインターンシップエントリーへの対処法を学ぶ。
第15回目	テーマ / 大学での学びとインターンシップ (加藤 / 講義)	キーワード / 就労と科学。講義全体の総括を行う。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになりましょう。最低限毎日、新聞はしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	20 %	4つの学習カテゴリーの理解度を中心に評価します。
日常点	80 %	出席状況、講義内レポート、受講態度の3要素をもとに評価します。企画立案の優秀作品は、グループ全員の評価に加算がなされます。

全学インターンシッププログラム関連科目に位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、専用の席につきます。80%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されます。受講を機に、厳密な時間厳守の生活リズムを身につけてください。

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

大規模教室でありながら、グループワークを基本とする講義です。グループの編成にあたっては、受講生自らが専攻の異なるやる気のあるメンバーを探し出す必要があります。よって、受け身の姿勢では得られるものが限られてしまえばかりか、学習の質にまで影響してしまいます。当然、受講態度を通じて評価にも甚大な影響が出ます。能動的な受講意志を持つこと。これがコーディネーターを務める私(加藤)からの、最大のアドバイスです。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しません。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女とオトコの経済学	加藤敏明 / 寿郎社 / ISBN4-9900757-5-7 / 労働経済学の入門書。
立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて	加藤敏明 / 立命館大学大学教育開発・支援センター / ISSN1348-1193 / コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。

「基礎学習」の参考書を挙げておきました。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

春季の全学インターンシッププログラム・ガイダンスに参加すると、参加者全員に「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、インターンシップに関連するサイトが紹介されています。

**その他 / Others**

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた各種の能力、スキルを大いに生かすためにも。

キャリア形成特殊講義 SF § キャリア形成論III(コーオペ教育概論) GA § 政策科学特殊講義(コーオペ教育概論) P § キ 20292  
 ア形成論 LE § 特殊講義(基礎)I(コーオペ教育概論) T § 特殊講義(自由選択)I(コーオペ教育概論) T § 特殊講義(基礎)1  
 (コーオペ教育概論) C § 特殊講義(各部門共通)I RK § コーオペ教育概論 G

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

### 授業の概要 / Course Description

本講義は、本年度に正課科目としてスタートする「コーオペ演習」にリンクするものとして、夏季集中講義の形で開講されます。よって、同演習の受講生には強く受講を勧めます。

本講義の最大の特長は、博士課程および修士課程の大学院生を主な対象としつつ、3年生以上の向学心旺盛な学部生にも受講機会を広げている点にあります。主題は高度なインターンシップ「コーオペ教育」ですが、教育論から行政論、経営論などへの発展的な学習が可能です。

講師として、インターンシップを所管する文部科学省、厚生労働省、経済産業省から講師を招くほか、産業界や関連する国際学会から第一線の識者を招聘し、高度な講義を集中的に展開します。

本講義は、4月上旬に募集・選考を行います。詳細は、3月下旬以降、共通教務センターにて確認してください。

### 到達目標 / Focus and Goal

講義名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム「コーオペ教育(Cooperative Education)」の意味です。

このため、集中講義全体を通じて、大学で学ぶ社会的な意味を深く認識する、高等教育機関としての大学の役割を科学的に理解し、受講生の専攻学問にフィードバックすることで発展的な学びにつなげる、などの高い到達目標を掲げています。

講義の内容は基本的に大学院生レベルですので、学部生は相応の予習、復習が必要となります。

### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本講義は、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで4カ月かけてあたる「コーオペ演習」(3年生以上後期配当科目)とリンクしています。受講生は、同演習の受講を勧めます。

また、本講義は全学インターンシッププログラム関連科目にも位置づけられています。そこで、同じ関連科目の「インターンシップ入門」(2年生後期配当科目)、「キャリア形成論」(3年生前期配当科目)の受講を強く勧めます。

### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(第一日)		【導入】
第1回目	テーマ / コーオペ教育とは (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / インターンシップ、コーオペ教育、キャリア。後半はグループでテーマに基づき議論する。
(第二日)		(午前の部・基調講演)
第2, 3回目	【学内公開講座】「日本型コーオペ教育を考える」 テーマ / WACEに見るコーオペ教育の海外動向 (斉藤敬子 世界コーオペ教育協会理事)	概要 / 教育効果測定の有力な手法として、コーオペ教育が見直されている。世界コーオペ教育協会(WACE)の斉藤理事を講師として招き、コーオペ教育をめぐる海外の最新動向を学ぶ。
		(午後の部・パネルディスカッション)
第4, 5, 6回目	テーマ / 日本型コーオペ教育を考える	概要 / パネリストとして、基調講演の斉藤氏のほか、松澤孝明氏(文科省)、田中宣秀氏(名古屋大学)、山野井昭雄氏(日本経団連)を招き、テーマに沿って議論を展開する。受講生との間でも意見交換を行う。司会は、本講義のコーディネーター、加藤が務める。
(第三日)		【所管省講師による講義】
第7, 8回目	テーマ / 日本のコーオペ教育・文科省 (松澤孝明 文科省政策科学技術政策研究所第三調査研究グループ総括上席研究官)	概要 / 日本唯一の資源、「人材」をどのようにして高度化し育成するか。文科省の基本的な方向性と取組みにつき教授される。
第9, 10回目	テーマ / 日本のコーオペ教育・厚労省 (伊藤正史 厚労省職業安定局若年者雇用対策室長)	概要 / ニート、フリーター対策にもつながる体験型学習プログラムの中で、厚労省はコーオペ教育をどのように位置づけ、何に取組むかが教授される。
(第四日)		【所管省講師による講義】
第11, 12回目	テーマ / 日本のコーオペ教育・経産省 (市原健介 経産省商務情報産業局情報政策課情報プロジェクト室長)	概要 / ベンチャー起業家育成に代表される同省の人材育成施策の中で、コーオペ教育は今後どのような展開を見せるのか、基本的な指針が教授される。
		【中間総括】
第13回目	テーマ / コーオペ教育の将来像 (加藤 / 講義 + グループワーク)	キーワード / 3省方針、コーオペ教育、人材。各省講師による講義を総括の後、グループでテーマに基づき議論する。
		【産業界講師による講義】

第14回目	テーマ / 産業界から見たコーオペ教育 (山野井昭雄 味の素(株)技術特別顧問、日本経済団体連合会産学官連携推進部会長)	概要 / 日本経団連で産学官連携に取り組んできた山野井部会長が、日本におけるコーオペ教育の可能性を産業界の立場から教授する。
第15回目	テーマ / 産業界から見たコーオペ教育 (今成真三 菱化学(株)常務執行役員、CTO)	概要 / 工学系の大学院生とともに幅広く産学連携プログラムに取り組んできた今成CTOが、専攻学問と直結した学習プログラム、コーオペ教育の可能性につき教授する。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

ビジネス社会の各界第一線で活躍する講師が登場します。最低限毎日、新聞はしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	30 %	講義全体の理解度を中心に評価します。
日常点	70 %	出席状況、講義内レポート(3回)、受講態度の3要素をもとに評価します。

全学インターンシッププログラム関連科目にも位置づけられている本講義の最大の留意点は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることが絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、専用の席につきます。70%を占める日常点の多くは、この出席要件で判断されます。受講を機に、厳密な時間厳守の生活リズムを身につけてください。

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

学内公開講座においても講義においても、意見交換のためのQAタイムを十分とってあります。また、グループワークも随所で行います。大学院生に混じり受講するわけですから、受け身の姿勢では十分な学習効果が得られません。能動的な強い受講意志を持つこと。これが、コーディネーターを務める私(加藤)からの、最大のアドバイスです。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しません。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教養教育の系譜	S・ロスブラッド(著)、吉田文、杉谷祐美子(訳) / 玉川大学出版部 / ISBN4-472-40061-8 / 大学のコア学問領域と社会の関連性を米国を舞台に考察する。
世界の教育改革	OECD(著)、御園生純、稲川英嗣(監訳) / 明石書店 / ISBN4-7503-1639-3 / OECD加盟各国の教育行政全般を押さえる基本書。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫 / 東洋経済新報社 / ISBN4-492-50096-0 / 米国における産学連携の歩みを知る上での必読書。

事前学習に相応しい13冊を挙げておきました。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

文科省、厚労省、経産省の公式ホームページから、インターンシップおよびコーオペ教育に関連する取組みを事前学習できます。海外のインターンシップやコーオペ教育の情報収集には、下記を紹介します。

世界コーオペ教育協会(WACE) : [www.waceinc.org](http://www.waceinc.org)

米国コーオペ教育委員会(NCCE) : [www.co-op.edu](http://www.co-op.edu)

コーオペ教育誕生百年記念委員会(CEIA) : [www.ceiainc.org](http://www.ceiainc.org)

**その他 / Others**

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Description**

本演習は、二つの特長を持っています。

一つは、後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生とで編成されたチームが取り組む実践的な学習プログラムであることです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部教学の再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営に当たりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

二つ目は、本科目が文部科学省の「2005年度派遣型高度人材育成協同プラン」の選定プログラムであることです。その意味で学内外の注目を集めているばかりか、各チームに専用のパソコンが貸与されたり、活発な学習活動への資金支援が可能です。キャンパスにとどまらない幅広い学習活動が期待されます。本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は4月上旬以降、共通教務センターにて確認してください。なお、合格後には、履修料の納入が必要となります。

**到達目標 / Focus and Goal**

演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム「コーオプ教育 (Cooperative Education)」の意味です。

演習全体を通じて、ビジネス社会が求める高い企画立案能力を涵養する、成果を受講生の専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、自律的な学習意志、姿勢を確立する、などが到達目標です。

**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to**

本演習には、リンクする講義としてコーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)が夏季集中講義として開講されます。主たる対象は大学院生ですが、本演習受講生にも受講を勧めます。

また、本演習は全学インターンシッププログラム関連科目にも位置づけられています。そこで、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)、「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。

**授業スケジュール / Schedule**

授業日(第N回) (開講前)	テーマ / Theme 【学内公募】	キーワード / Key Word
	【リスクマネジメント研修】	参加企業からの課題が2005年度末に出揃います。ただちに学内公募が2006年5月頃にかけて行われます。学内選考(リポート、面接)が行われ受講生が5月末頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
(開講)	【学内研究会】	7月に実施される、全学インターンシッププログラムの「リスクマネジメント研修」を受講します。
	【企業研修】	9月初旬から翌年1月まで、原則として毎週授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。
	【企画立案研修】	会社研究を目的に、3日間程度、参加企業に出向き研修を行います。初日、学内研究会で取り組んだ会社研究の発表を行います。
	【プレゼンテーション研修】	10月初旬に、専門家を学外から招き、企画立案に関する基本的な知識を習得します。
	【中間発表】	11月中旬に、やはり専門家を学外から招き、中間発表および成果発表に備えプレゼンテーションスキルを習得します。
	【成果発表】	専攻学問を生かした課題解決の企画立案発表を行います。原則として、参加企業に出向き行います。発表には参加企業から多数の関係者が参列、活発な意見交換がなされます。
	【報告書作成】	中間発表で寄せられた意見、評価をもとに、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表には、参加企業の幹部社員も多数参列し、忌憚のない意見、評価がなされます。
		2006年度内に、報告書(200ページ程度)を作成します。報告書は本演習修了後、就職活動などに大いに活用できます。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触するわけですから、多くの社会人と交流することになります。最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、参加企業に関わる記事にはしっかり目を通してください。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	報告書をもとに評価します。

日常点 50 % 学内研究会や各種研修への出席状況、 演習内レポート(随時)、 学習姿勢、の3要素をもとに評価します。

評価は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物を総合的に判定し、日常点として評価します。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。

その上で、報告書の内容をもとに最終的な評価を行います。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本演習は、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取るという強い意志の上に成り立っています。2004年度から試行的に展開されてきましたが、過去の事例でも、「大学生のレベルとは思えない優れた発表」、「若手社員の強い刺激になる」、「さっそく持ち帰り成果を実施したい」など、高い評価を得ています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

#### 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館大学型コーオブ教育の確立に向けて	加藤敏明 / 立命館大学大学教育開発・支援センター / ISSN1348-1193 / コーオブ教育をめぐる動向とともに、コーオブ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
近代科学の誕生(上、下)	ハーバート・バターフィールド / 講談社(文庫) / / 科学論の古典的名著。
新しい科学論 - 事実は理論をたおせるか	村上陽一郎 / 講談社(ブルーバックス373) / / 既存の価値観に挑戦的な科学論書。
現代科学論 - 科学をとらえ直そう	井上弘幸、金森修 / ワードマップ / / 科学者に焦点を当て、その実像と課題に触れる書。

コーオブ演習の事前学習として役立ちそうな4冊を挙げました。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

参加企業の公式ホームページは必ずチェックしてください。

#### その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。受講で得られた各種の能力、スキルを大いに生かすためにも。

## 国内インターンシップ GC § 海外インターンシップ GC

14811

担当者名 / Instructor 徳川 信治

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさなどを職場体験を通じて検証できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。
大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。		

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて適宜指示する。

## その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ GC § 海外インターンシップ GC § 特殊講義(基礎)I(インターンシップ) GC § 特殊講義(基礎)1(イ. 14821  
ターンシップ) GC

担当者名 / Instructor 徳川 信治

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Description

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い就業意識の醸成、自主性、独創性、柔軟性のある人材育成などを目的に、企業や行政機関およびNPO・NGO団体などにおいて、2週間～1ヶ月程度の就業体験を行う「教育プログラム」です。受入先の部門としては、管理・総務・営業・製造現場・研究開発部門など多岐にわたります。募集および受講許可発表などの手続きは、全て大学コンソーシアム京都が窓口となって行います。

#### 到達目標 / Focus and Goal

日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、学ぶ楽しさなどを職場体験を通じて検証できる。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2回生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3回生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

#### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表
	インターンシップ研修	詳細はガイダンス時に発表
	事後講義(大学コンソーシアム京都にて実施)	詳細はガイダンス時に発表

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
その他	100 %	大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

大学コンソーシアム京都インターンシップへの受講状況、研修先の評価等をふまえ、総合的に成績評価を行う。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

#### 教科書 / Textbooks

必要に応じて適宜指示する。

#### 参考書 / Reference Books

必要に応じて適宜指示する。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて適宜指示する。

#### その他 / Others

必要に応じて適宜指示する。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C 14813  
 § 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 4

#### 授業の概要 / Course Description

本科目は、インターンシップオフィスで募集する「立命館大学全学インターンシップ・プログラム」であり、全学の学部生(2年生～4年生)を対象に単位認定を行っています。このプログラムで単位認定を受けるためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い(履修料を納入)、インターンシップオフィスが実施する「事前および事後研修」をすべて受講すること。各種レポートを提出することが必要要件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末～4月に実施するガイダンスで発表の予定です。

#### 到達目標 / Focus and Goal

所属する学部の教学を検証するのがインターンシップ本来の目的です。事前研修で詳細を教授しますが、そのために立命館大学は「基本理念」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し認識する。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2年生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3年生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

#### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修 / 総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証)	
	事前研修 / リスクマネジメント研修、ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	
3	インターンシップ研修(夏季休暇期間中に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修 / インターンシップ研修発表報告、グループワーク(学びの確認と目標)	

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

#### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	20 %	最終レポートは必須。原則として中間レポートも提出すること。
日常点	70 %	事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します。
その他	10 %	研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります。

評価は、学内で行われる事前および事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習活動、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その場でF評価になります。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

#### 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / / 1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊



インターンシップ受入先を考える上で役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

3月末～4月または5月のガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されています。

**その他 / Others**

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ(専門) GA § 国内インターンシップ GA § 海外インターンシップ GA § 海外インターンシップ(専門) C 14824  
 § 特殊講義(基礎)I(インターンシップ) GA § 特殊講義(基礎)1(インターンシップ) GA § 産学協同・起業活動インターンシップ  
 演習 GA § 国内インターンシップ IA § 海外インターンシップ IA § インターンシップ GA

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Description

本科目は、インターンシップオフィスで募集する「立命館大学全学インターンシップ・プログラム」であり、全学の学部生(2年生～4年生)を対象に単位認定を行っています。このプログラムで単位認定を受けるためにはインターンシップ受入先機関の決定後、受講登録を行い(履修料を納入)、インターンシップオフィスが実施する「事前および事後研修」をすべて受講すること。各種レポートを提出することが必要要件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末～4月に実施するガイダンスで発表の予定です。

#### 到達目標 / Focus and Goal

所属する学部の教学を検証するのがインターンシップ本来の目的です。事前研修で詳細を教授しますが、そのために立命館大学は「基本理念」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し認識する。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「全学インターンシッププログラム」の内容を一段と深めるために、関連科目の「インターンシップ入門」(2年生後期配当科目)および「キャリア形成論」(3回生前期配当科目)の受講を勧めます。また、本年度から新たに高度なインターンシップ、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(研究科および3年生以上配当科目、衣笠)も夏季集中講義として開講されます。インターンシップで学んだものをさらに発展的に学習したい方にお勧めです。

#### 授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1, 2	事前研修 / 総合オリエンテーション、インターンシップとは何か(基本的視点)、グループワーク(専攻学問の再検証)	
	事前研修 / リスクマネジメント研修、ビジネスマインド研修、ビジネスマナー研修	
3	インターンシップ研修(夏季休暇期間中に実施されるものを基本とします)	
4	事後研修 / インターンシップ研修発表報告、グループワーク(学びの確認と目標)	

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限毎日、新聞は読むようにしましょう。特に、インターンシップ先の業界に関わる記事にはしっかり目を通してください。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	20 %	最終レポートは必須です。
日常点	70 %	事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します。
その他	10 %	研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります。

評価は、学内で行われる事前および事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習活動、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。理由なき学内研修での遅刻や欠席は、その場でF評価になります。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

インターンシップ研修が行われる企業等は、学校ではありません。学習プログラムが用意されているわけではないのです。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢が求められます。過去の事例でも、「立命館大学の学生はいろいろと提案してきて、こちらもやりがいがあった」との声が寄せられています。受け身でなく、能動的に臨んで欲しいものです。

#### 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル / 晶文社 / 1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編 / 日本経済新聞社 / ISBN4-532-35114-6 / 日経本紙の人気連載を再構成

13歳のハローワーク

村上 龍 / 幻冬舎 / ISBN4-344-00429-9 / 人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

-----  
インターンシップ受入先を考える上で役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

3月末～4月または5月のガイダンスに参加すると「立命館大学 Internship Guide Book」が配布されます。その中で、関連サイトが紹介されています。

**その他 / Others**

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。立ち寄ることを強く勧めます。